朝来市授業ＵＤ化の視点と手立て

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| UDの視点 | 観点 | 具体的な手立て |
| ①導入・展開の工夫 | 課題の明確化  教材提示  見通しのもたせ方  集中の持続 | カード・板書等で課題を提示し、何を学習するのかを明確にする。  視覚（映像等）や触覚（実物等）に訴える教材を提示することで、興味・関心を高める。  学習の流れをホワイトボード等で示したり、進度を「今ここカード」等で示したりする。  課題に取り組みやすいよう、これまでの学習や生活との関連事項を示し、興味関心を高める。授業のユニット化  一斉音読やフラッシュカード等で学習への注意集中を高める。 |
| ②指示・発問の工夫 | 具体的な言葉  明確な指示  働きかけ  モデル提示 | 発達段階に合わせた端的な言葉で行動を促したり尋ねたりする。  活動の途中で指示を出す必要があるときは、活動を止めてから説明する。  指示は明確に、短く、はっきり語尾まで言い切る。  例）「これから３つのことについて、説明します。」「～しましょう。」等  ポジティブ・肯定的な言葉で行動を促す。（「やってみよう」「できそうだ」という気持ちを持たせる）  わかりやすい具体例を示す。 |
| ③板書の工夫 | 見やすさ  流れ  文字の大きさ  色 | 簡潔な語句や丁寧な文字で書き、線や記号を活用する。  学習の流れがわかるように板書をする。  最後列でも読み取れる文字で書く。  重要語句や強調したい部分は色を変えて書く。  色を多用しすぎず、色が表す意味を児童生徒や職員間で共有する。 |
| ④机間指導の工夫 | 声かけ  動き方  観察 | 学習活動に困難さを示している場合、具体的な言葉で活動を促す。  支援が必要な児童生徒を中心に机間指導し、教師に支援を求めやすくする。  課題や指示に対して理解の状況を把握する。 |
| ⑤学習展開の工夫  UDの視点 | リズム  時間配分  観点  個人の活動  ぺアワーク  グループ討議  教材の提供 | 指導・活動内容のねらいに応じて緩急をつけた展開をする。  導入・展開・深化・まとめのバランスを考慮する。  タイマーの合図等で活動開始・終了し、次の活動へ気持ちを切り替えさせる。  具体的な時間を示す。  具体的な手立て  板書や課題と向き合い、思考を整理させる。  困った時、教師に支援を求める手立てを準備し、支援を求めやすくする。  二人で意見を出し合い、お互いの考えに気付かせる。  複数人で意見を共有し、意見をまとめさせる。  話し合ったことを学級で視覚的に共有できるように、発表ボード等を活用する。  友だちの話を聞くときは、最後まで聞かせる。  児童生徒の実態に即して、個々の学び方に合った学習ができるよう多様な課題を準備する。 |
| ⑥教室・学習環境の工夫 | 座席  前面掲示  刺激量の調整  整理整頓  物の置き方  場づくり  学習ルール | 支援の必要な児童生徒を前方に配置する等、個々の教育的ニーズに配慮する。  注意集中を妨げやすい掲示（ひらひら・キラキラ）を避け、刺激量の調整を図る。  カーテンなどで刺激量を調整する工夫をする。  教材の場所が一目でわかる等、誰にも使いやすくわかりやすくする。  教室内の物の置き方が決まっている。  学習成果を楽しく生み出すような環境を準備する。  学習活動を進めるにあたって、安心して学ぶための約束事を決める。 |
| ⑦視覚支援の工夫 | 提示物の工夫  具体物の活用  ICTの活用 | 理解を促したり、興味関心を持たせたりするために、機器や提示物等についてねらい・効果を  明確にし、使用する。  視覚的に捉えたり操作的・体験的活動をしたりすることで、より深い理解を図る。  興味関心を高め学習の定着や理解の深化を図る。 |
| ⑧個別への配慮 | 補助教具の工夫  教材の活用  選べる課題・支援  個に対する支援 | 個別に支援が必要な児童生徒に、効果的・操作しやすい教具で理解を深める。  個別に支援が必要な児童生徒に、教育的ニーズに合わせた教材を準備する。  全体指導で理解や活動ができにくい場合、自ら選択できる課題やヒントカード等で参加を促す。  課題が早く終わった児童生徒には次の課題を用意する。  個別の指導に対する具体的な手立てを準備する。 |

参考文献：兵庫県小野市立河合小学校平成２６年度研究協議会資料